六花

平松薫　水谷ひさ江　三井孝子
武田美雪　志方章子　鶴目鯛遊子
河野友子　中村房枝　松本文一郎
物江昌子

山田六甲

宮森穀　佐原正子
河内童楽　梶浦玲良子　小田元
池崎るり子　辻亨子　鶴場美智子
二瓶洋子　隅喜久子　中谷嘉美子
岩松八重　栗田まさし　斉藤信子
[illegible]　[illegible]　三郎
松田古吉　[illegible]　つ子
[illegible]　[illegible]　[illegible]子
[illegible]　[illegible]　[illegible]
木曽岳風子　鳴海清美　西村咲子
中野哲子　貝森光大　田中武彦
角田信子　松野幸子　松山律子

阿保信子

旅の宿みかんむく指温かき

冬の族ホームで買ひしゆで玉子

合格を絵馬に書く母梅日和

池内せつ子

春愁や鯨の出口の見つからず

午前二時ナース詰所の白牡丹

気に入らぬ色捨てに行く夏野かな

池崎るり子

種床にしみ込んでゐる春の雨

健脚を誇りし夫や土用灸

蝙蝠の飛び交ひて闇近づかず

市川伊團次

お隣のかべに触れたる若葉かな

お彼岸や落せし財布現はるる

蒲公英の絮は神戸の光かな

岩松八重

一滴づつ光となりて氷柱消ゆ

茅ぶきの雪解け水のワルツかな

春浅しスーツと同じ髪の色

小田　元

画用紙をはみ出し銀杏散り急ぐ

冬紅葉後姿を見て居りぬ

絆創膏でジングルベルを吊したり

来世また妻と暮して桃の花

啓蟄の疣とり顔の小さくなり

天上に電話をすれば山笑う

貝森光大

角田信子

敬老の日日の丸入れて母を撮る

去年今年母の娘に変りなし

ワープロのはなはとまめや母の夏

梶原玲良子

桜桃の花より暮れてオムライス

山羊を抱く少女に風のつばくらめ

百日草百日近き野の日暮

河内童楽

魚たちにダンスの時ぞ初夏の海

父の日や父はひねもす海に釣り

初燕来そうな海の空の色

五億年のちも留守とよ寒雀

鬱勃と蜷の道あり雲に入る

鯉老いて上目を使ふ春の暮

木曽岳風子

栗田まさし

元旦や神仏宿る家ばかり

年賀状まだくる妻の三回忌

アルプスの峯に初富士影落す

河野友子

穏やかと云ふ外はなしお元日

山寺の鐘おんおんと初詣

ミレニアム帰化せし人の初電話

笹村政子

柚子寄せて弾いて寄せて独り風呂

傘の骨とび出してゐる神の留守

押印のまた傾きぬ薄暑光

佐原正子

忘れじと一鳴き二鳴き秋つばめ

精米器はたりと止みぬ虫の声

小春日の大豆を打てる老夫婦

志方章子

薔薇色の目薬こぼる春の生

ひとつづつ山消えてゆく桃の花

水鉄砲斜めに飛んでゆきにけり

信崎和葉

お多福のえくぼ上向き十二月

鰤大根鯛の目ン玉からつつき

鮫の目の小さすぎたるかの子の忌

武田深雪

包帯をとりて泳ぐ子海静か

ジェット機の側駆け抜けし神の旅

わらわらと人を吐き出す夏の駅

田中武彦

八月の広島駅に刻合はす

回廊の礎石を噴けり秋の潮

稲妻に縮んで伸びて黍畑

辻　享子

慟哭のごとお松明闇こがす

好き嫌ひ好き好き渦に林檎むく

味見せし諸子の小骨残りたる

鶴目鯛遊子

猫のひげひっぱってみる三鬼の忍

冬の虹まだ吾に運あるらしき

春の海胆電波発信していたる

出口　誠

初めての汽車で通学新入生

菜の花に足止められしベビーカー

鯉幟さんぜんと並ぶ三色旗

中谷喜美子

初場所や郷土力士の男前

餅花の餅のひとつや遠き窓

シャボン玉ふくやうなキスしてみてよ

中村房枝

冬の蠅どすんと止まる畳かな

河豚鍋や血のつながらぬ者同士

傘たたみゐる横顔も事始

鳴海清美

車酔ひの耳が捉へし初音かな

蝶生る葉蘭の群れの騒ぎゐて

笹鳴や樟の梢の湿りたる

西塚茂代

赤帽が押し寄せてくる運動会

どんど焼き海の字二枚ゆらゆらと

すり鉢の同心円にすがる胡麻

西村咲子

大雪の空がこのまま抜けるかと

七日粥もとの二人に戻りけり

六十路まで共に生き来し雛かな

二瓶洋子

風船の膨らんでくる幼児の眼

遠霞地域振興券とやら

しやぼん玉このストローの多産系

馬場美智子

一病をなだめてゐたる春の午後

母の忌に入院となる春あした

お見舞ひに餡館いつぱいの蓬餅

平松　薫

花野来て終の栖を姑(こ)棄(き)野とは

白萩の庵の尼僧に過去を聞く

蕗味噌を嘗めて独りの隠れ里

松下幸恵

松茸を値切つて値切つて買ひにけり

草橇に遊ぶ子どものあごにキズ

ふりむけば誰も居ないよ七変化

松野幸子

正月の鉄柵が噛むテニスボール

チューリップ咲かせ積木の家なりし

三面鏡素顔がみっつ春の風邪

松本文一郎

三ケ日枕に近く広辞苑

抱き上げてパパと呼ばれし雛祭

遠目にも煙突五本日脚伸ぶ

松山律子

読み初めはひょいと開いたところから

モナリザの謎ある限り注連飾る

初電話うちは葬儀屋ちゃいまっせ

水谷ひさ江

春愁やテネシーワルツとシーグラス

紙風船一人遊びの上手な子

心臓の口から出さうバレンタインデー

三井孝子

屋根替や隣の家の庭を借る

湯気上がる丹波の一隅耕せり

くすり指秘かに痒し冬電車

宮森　毅

去年より気になつてゐるすきま風

囀りの位置移りけり靄の中

オリオンの真南に梅ほころびぬ

物江昌子

顔に触れスカートに触れ夏柳

洗濯のシーツに映えて唐辛子

タンポポやコンクリートの棲家なる

横山迪子

お多福のいびつの飴や初戎

飴の口光る背の子や初戎

寒椿舌っ足らずのアニメ歌

10周年記念　六花合同句集
平成14年5月18日　発行

発行所　六花俳句会
〒657-0101
加古川市平岡町新在家2000-65
TEL&FAX　0794-20-5419
印刷所　株式会社　美生社
大阪市西成区出城1-7
TEL　06-6647-8555
頒価　2000円（送料含む）

ＰＤＦ製作　俳誌の salon